

サイエンスファン

活動場所：2年2組教室、体育館、前庭

6月4日（火）13：55～15：00

提案者：岡田 啓吾

1 子どもの思いの連続

4月、泥団子づくりに出合った子どもは、水分をたっぷり含んだ泥を使って丸い泥団子を作った。表面をさらに美しくするために乾いた細かい土を何度もかけるとよいと知った子どもは、自分の泥団子を持って原っぱやグラウンドに乾いた土を求めて飛び出した。中には自分で篩を用意して石と細かい土を分離したり、スポンジで表面を磨き始めたりする子どももいた。さらに、大学の専門の先生から、より丸く、より表面を滑らかにする方法を教えてもらい、遊びをひろげる喜びを味わった。次に出合ったフィルムケースロケットでは、水に絵の具を混ぜたり、お湯や炭酸水で試したりしながら、遊びをつくり変える楽しさを実感した。

その後、子どもは草花遊びやブーメラン、風車、凧、シャボン玉、ソーラーバルーンに出合った。子どもは自分のお気に入りの遊びに浸りながら、様々な材料や方法も試してみたいと思いを膨らませている。

2 本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

遊び道具をつくりたり試したりすることを通して、仲間と協働したりよりよい方法を考えたりしながら、自分で遊びをつくり変えるおもしろさを味わう。

3 本時の構想

○ お気に入りの遊びに浸る

子どもは、これまで出合った遊びからお気に入りの遊びを選んだ。子どもの思いや願いをもとに遊びをひろげるため、仲間と協働しながら遊びの道具を作ったり、遊びの場所、方法について自分で考えたりしてきた。例えば、シャボン玉遊びでは、より大きなシャボン玉を作るための道具をつかった。教師は、必要に応じて新たな材料や道具、遊びの視点を提示する。子どもは、期待感や興奮を高め、自分のお気に入りの遊びに浸りながら、遊びをつくり変えていくおもしろさを味わう。

4 本時の展開 76・77M/全425M（65分）

時間	番号；子どもの活動 ・；子どもの姿	○；教師の手立て
10	<p>1 自分がする遊びについて話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと大きなシャボン玉をつくりたいと話す。 ・ブーメランの大きさやおもりを変えてつくりたいと話す。 ・違う形の風車をつくりたいと話す。 ・ソーラーバルーンに再チャレンジしたいと話す。 ・大きなたこをあげたいと話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○終末の振り返りの共有に生かせるように、それぞれの遊びでどんなことに取り組むかを板書しながら丁寧に確認する。 ○前時までの活動での子どもの姿から、必要に応じて道具や材料、道具作りや遊び方の視点を伝える。
40	<p>2 お気に入りの遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が作った道具で大きなシャボン玉をつくる。 ・材料や羽の大きさ、ねじり方をいろいろ試しながらブーメラン遊びをする。 ・ソーラーバルーンを完成させ、外で浮かせる。 ・自分が作ったたこをあげる。 ・水に様々なものを混ぜてロケット遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの思いを汲みながら教師も子どもと共に思考錯誤したり、必要に応じてアドバイスしたりしながら活動する。 ○子どもの気付きや発見に耳を傾け、子どもと教師で共有し、振り返りに生かせるようにする。
15	<p>3 遊びを振り返り、その時の様子やさらに試してみたいことについて話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たこがうまく上がらなかったと話す。 ・道具やシャボン液を変えてみたいと話す。 ・ブーメランの材料を変えて試してみたいと話す。 ・ソーラーバルーンの大きさを変えてみたいと話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの遊びでの活動の様子を共有できるように、活動中の写真を画像で提示する。 ○子どもの思いが連続するように、子どもの思いを捉え、遊びをよりよくつくり変える方法を教師も共に考えたり、提案したりする。

